

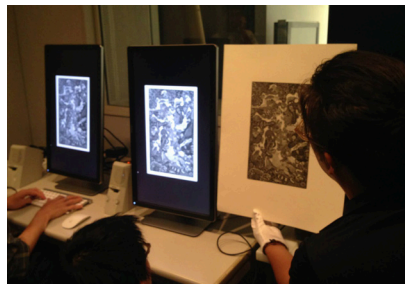
研究代表：前田真二郎 研究分担：瀬川 晃
学生：2年 中村 水野 宮武 1年 伊藤 青木 櫻井（聴講）

プロジェクト概要

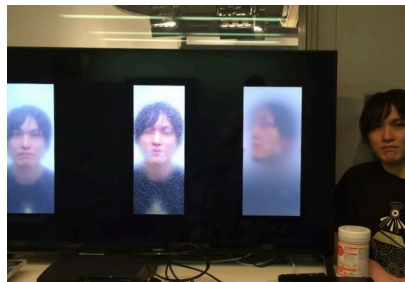
現在普及している HD 映像よりもさらなる高解像度の映像フォーマット『4K』や『8K』が、近い将来、一般化されると言われている。それらの映像技術は、従来方式よりも繊細な描写を実現するといったことだけではなく、新たな表現手法や「メディア」をもたらすに違いない。IAMAS（イアマス）HD II プロジェクトは、このような視点から研究をすすめることとなった。研究の期間は平成 26 年度より 3 年間で予定している。

活動概要

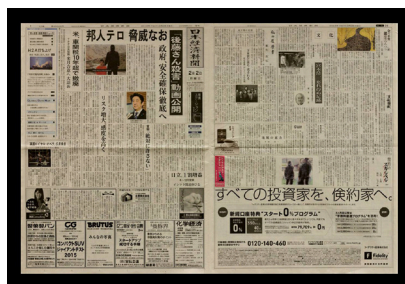
初年度は新規導入機材のテストや整備に多くの時間を費やした。
前期は、4K ビデオカメラと、4K ディスプレイ（55 インチと 23 インチ）を用いて、これまでの HD フォーマットとの比較を中心に各種テストを行った。高解像度化によって実現される映像表現について習作をつくりながら考察を行った。後期は、写真表現を中心に高精細映像の理解を深め、引き続き、各種の習作の制作をすすめた。



左：実物のエッチングと HD、4K フォーマットでの表示の比較
右：スキャナーでワイド約 40000 ピクセルの静止画を作成（画質の検証）



左：実寸大の人物をフィルター越しに撮影する「現実感」についての実験
右：一定の距離から片目で見ることによる「現実感」についての実験

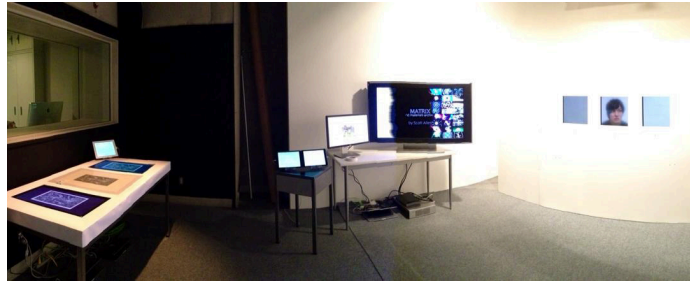


新聞を 55 インチ 4K ディスプレイに実寸大に表示する実験

HD II展

日時：2014年7月26日（土）27日（日）

会場：ソフトピアジャパンセンター（ビジュアルスタジオ／シアター）



HD II展 展示風景

IAMAS 2015 プロジェクト研究発表会

日時：2015年2月19日（木）-22日（日）

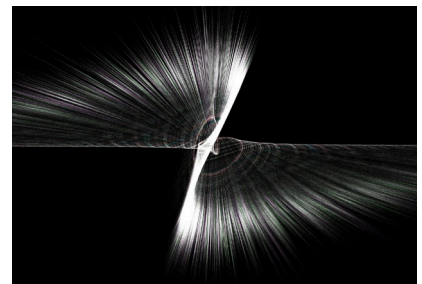
会場：ソフトピアジャパンセンター（ソピアホール）



プロジェクト研究発表会 展示風景

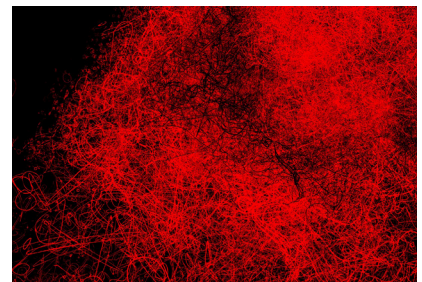
（ディスプレイを机に平置きにすることで近距離での鑑賞をうながした）

展示作品について（抜粋）



左：鑑賞者の視点を音声で誘導する試み

右：3000万個のパーティクルによる高精細な表現



左：スプリットスクリーン表現による画面構成

右：高精細ドローイング・アニメーションの試作

その他の活動

後期はゲスト・レクチャーを開催し、プロジェクトの活動について学会発表を行った。

◇ゲスト・レクチャー：
特別講義「高精細アニメーションの制作現場」
講師：早川貴泰（IAMAS 卒業生）
日時：2015 年 1 月 14 日（水）
会場：ソフトピアジャパンセンター（シアター / ビジュアルスタジオ）



4K,8K フォーマットによるドローイング・アニメーションの制作について、多様な実作を紹介しながらのレクチャーを開催。

学会発表

日本映像学会中部支部 2014 年度第 3 回研究会

日時：2015 年 3 月 14 日（土）
会場：愛知淑徳大学長久手キャンパス 11 号棟 1F ミニシアター

第三部「学生プレゼンテーション」において、伊藤大作（メディア表現研究科 1 年）が、『“Parking” HD II プロジェクトでの習作』というタイトルでプロジェクトの活動紹介と自作についてプレゼンテーションを行った。習作は鑑賞者の視点を音声によって誘導する試み。



まとめ

2015 年度は外部での成果発表も含めながら、より実践的な作品制作を通して高精細映像技術を用いた映像表現を探索したい。